平成二十九年十二月の作品（十二月八日（金））（第五七回）

（文京区民センター３階Ｅ会議室）

賓頭盧（びんずる）を撫でて立ち去る冬帽子　（一江）

冬ぬくし社殿に並ぶ招き猫　（隆治）

残月はパールの如し師走富士　（奉男）

年の瀬の熱き合唱堂に満つ　（正佳）

銀杏散る黄昏時を街歩く　（孝昭）

病み抜けし妻に安堵や大晦日　（前歩）

雪乗せる一両電車富良野線　（貴美）

木枯らしや陽だまりに立ちバスを待つ　（芙紗）

はらはらと銀杏落葉の重さかな　（正雄）

山里に人影もなき冬田かな　（平六）

新米を薪で炊きをる山の宿　（清助）